

感動の場 一点

『オショロコマ』
制作年不詳 小川原 脩 画

魚のしなやかさを、1本の流れるような線で、その動きのすべてを捉えている。背に通った1本の線から魚の体全体が形作られ、オショロコマとわかる独特の様子はぼかしを効かせ、透明感と柔らかさを感じる背びれと尾びれは薄墨で描かれている。色も水彩絵の具で印象的に加えられ、顎の青と、腹びれの赤が鮮やかである。

小川原脩にとってオショロコマは、少年時代に兄弟で釣りをして遊んだ思い出とともに、その食べ方にも一言あり、「軽く焼いて一晩干すと、良い出汁がでるんだよ」と話していたという。

小川原の色紙絵には、遊び心や伸びやかさがあり、見飽きない。色紙に一回限りの線が、筆ですつと入れられる。角度をつけて消えてゆく線は、尾びれの活き活きとした動きを絶妙な加減で表現している。木炭でキャンバスに繰り返し下絵の線を引き、その中から選び取って仕上げられてゆく小川原の油彩画とは、正反対の描き方といえるだろう。尻別川の清流を想い起させる、涼しげな作品である。

文：沼田 絵美 (小川原脩記念美術館 学芸員)



ふるさと探訪

424回

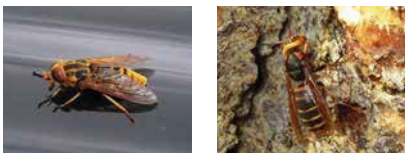
一ハチによく似た気になるアイツー

晴れた日の午前中、硫黄川の河川敷で生き物を観察していると、ふと、3センチほどの虫が私のまわりをグルグルと飛び始めた。色はオレンジと黒の縞模様。停めた車の上に止まったので近づいてみると、その正体はスズメバチにそっくりなアブ、アカウシアブだった。

アカウシアブは、湿地や池が多い山間地や川の近くでよく見られる。アブの間にはスズメバチのカラーパターンに似ているものが多く、ハチに見間違われることも多いが、人を刺す理由は全く違う。ハチはメスのみが腹部に針を持ち、巣や自分を守るために人を刺す。アブもメスだけが人を刺すが、卵の栄養にする血液を吸うためだ。子孫を残すため血を吸わなければならないのだから、執拗に寄ってくるのも頷ける。アカウシアブの場合、吸血量は500ミリのほどと自分の体重の2倍近い重さの血液を吸うというから驚きだ。アブは呼吸や車の排気ガスに含まれる二酸化炭素のほか、日向の黒色や赤色のものに寄って来やすく、たとえばホルスタインだと白い部分よりも黒い部分により集まる。

人を刺すアブにはご用心だが、その習性をもつ種類はアブの中でもわずか。どうしても寄って来てほしくない時は虫よけスプレーが効果的だ。長時間は効かないが、少しかけるだけでもきめんに寄って来なくなる。アブの多くは植物の花粉を運んで受粉を助けたり、幼虫期にアブラムシを食べてくれる種類がいたり、人にとってステキな面も多く備えている。アブは言うほどアブくないのだ。

文：小田桐 亮 (倶知安風土館 学芸員)



▲アカウシアブ (左：硫黄川沿いの湖畔林にて) とモンズメバチ (右)

展覧会のお知らせ

■常設展示

小川原脩展 「小川原脩 遙かなるイマージュ I」

小川原脩作品の全年代を網羅しながら、1930年代後半のシュルレアリスム作品から1950年代にいたる作品を充実させて紹介します。

会 期：開催中～8月26日(日)



■企画展示

しりべしミュージアムロード展「花さんぽ」

岩内・共和・倶知安・ニセコに点在する5つのミュージアムの共同企画展。今年は花がテーマ。後志の作家たちやピカソも花の絵を描いています。それぞれの表現は実に多彩。5館をめぐるながら、「花さんぽ」してみませんか。

会 期：開催中～9月24日(月)

第60回麓彩会記念展

1958年、小川原脩をはじめとする8人の発起人により設立された「麓彩会」。今年で60回目を迎えます。

会 期：9月1日(土)～12月16日(日)

アート・イベントのお知らせ

■アート・トーク

「フォーヴィスム(野獣主義)と日本と小川原脩」

1905年のパリに端を発するフォーヴィスム(野獣主義)。「色彩の革命」と呼ばれるほど革新的なこの前衛美術は、瞬く間に世界各地へと広まります。日本でも、小川原脩の俱中から美校時代にかけて波及し、若い画家たちの心を次々と捉えていきました。

日 時：8月11日(土) 14時～14時30分

お話し：柴 勤 (当館館長) 会場：当館映像ルーム (無料)

■土曜サロン

アート探訪(みて・きいて)18「パリの美術館1」

パリには美術館が目白押し。ルーヴルのような巨匠の作品が並ぶ大規模美術館から、自宅やアトリエを改造したアットホームで個性豊かな美術館まで数知れず。その中から、今回は印象派の殿堂としても知られるオルセー美術館を取り上げます。

日 時：8月18日(土) 14時～15時

お話し：柴 勤 (当館館長) 会場：当館映像ルーム (無料)

■アート・シネマ館

「放浪の画家ピロスマニ」1969年/85分/ジョージア(グルジア)

貧しい画家と女優の哀しい恋を歌った「百万本のバラ」のモデルとしても知られる天才画家ピロスマニ。人知れず清冽(せいれつ)に生きた画家の半生を、ジョージアの巨匠シェンゲラ監督が憧れにも似た情熱で描き出すとともに、ジョージアの風土や民族の心も見事に映像化しています。

日 時：8月25日(土) 14時～15時40分

お話し：柴 勤 (当館館長) 会場：当館映像ルーム (無料)

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観 覧 料：一 般 500円(400円)
高 校 生 300円(200円)
小 中 学 生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観 覧 料：一 般 200円(100円)
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
入館は16時30分まで
※()内は10名以上の団体料金
8月の休館日 毎週火曜日、
27～31日は臨時休館

手をつなぐ美術館

後志管内5館が共同で企画する「ミュージアムロード展」は、今年で17回目を迎えました。倶知安から最も近いニセコの有島記念館までは車で15分、最も遠い岩内の荒井記念美術館までさへ一時間とかかりません。これほど美術館・文学館が集中する地域は、全国的にも珍しいでしょう。道すがらの景観も素晴らしい、「ミュージアムロード」とは何とも見事なネーミングです。

さて、博物館・美術館の昔も今も変わらぬ大きな課題は、いかに多くのお客様に利用していただくかということ。北海道博物館協会が今年の研修会を倶知安で開くというのも、この「ミュージアムロード」を一つのヒントにしたいという切なる思いがあるようです。

館 長 柴 勤

夏休み期間は小中高生無料

8月31日(金)まで、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。夏休みは美術館へ!